

令和5年度 学校関係者評価書

1. 学校評価の年次報告について

- ①学校関係者評価委員会は5名の外部委員と11名の校内委員で構成し、6月・11月・3月と学期ごとに、年間3回開催した。
- ②学校評価に係わる各種アンケートの情報収集は、年次計画通り実施できた。
- ③校長以下、校内委員は、自己評価書の達成目標に基づいて外部委員に対して学校の現状や課題を誠実に報告することができた。
- ④外部委員の意見は、職員会議や運営委員会及び科会等において各教職員に復伝し、業務改善に努めた。

2. 学校関係者委員からの意見（3回分総括）

- ①きれいな学校案内を作成することも大切だが、こまめな保護者への情報発信にも努めてほしい。
- ②卒業生の言葉を聞く機会があれば、6年間の成長が伝わって良いのではないだろうか。広報とは、そこにいる主役である子どもたちの声を届けることだと考える。
- ③岩短親子フェスタで若い保護者に付属中をPRするなど、学園で広報活動を一本化することも大切である。
- ④新型コロナウイルスが第5類に移行したことで、様々な行事が復活していることは喜ばしい。また、活動の様子を報告しているHPを楽しみにしている。
- ⑤髪型の規制を緩和する、防寒着の着用を認めるなど時代に合わせて校則を改変していることは良いことである。
- ⑥現代はコミュニケーションスキルの低い生徒が多いように思われる。そのことが若年層の離職者増加につながっている。このような力を在学中に身につけることで、進学・就職時に良い人間関係を構築できるのではないだろうか。
- ⑦先生方が健康でないと良い教育はできないので、体に気をつけて頑張ってもらいたい。また、進学指導のスキルは非常に高いので、良い伝統としてこれからも大切にしてほしい。
- ⑧最近、高水に関する新聞記事が多くなったように思う。それに関連した子どもたちの言葉を取り上げ、文章にして各出身中学校へ紹介することも考えてはどうだろうか。

3. まとめ

今年度は「効果的な広報活動」を主な協議事項として、評価委員の方々から意見をいただいた。山口県公立高校が今春も大規模な2次募集を実施しており、本校の高校生徒募集において昨年同様苦戦を強いられている。また、令和8年度に岩国高校の併設中学校が開校予定であり、付属中学校の生徒募集で懸念される材料である。本校を取り巻く環境は、大変厳しい状況にある。評価委員の方々からは、本校の実績と教員の指導スキルに対してかなり高い評価をいただいた。今回の貴重な意見をもとに、在校生の声や成長の様子、進学やクラブ活動における実績を生み出す指導方法などが外部に上手く伝わるよう、効果的な広報活動に努めていきたい。